



10月22日 サントピア大竹で「健康・福祉まつり」が4年ぶりに開催されました。アイマスクをして目が不自由な方の体験をした澤井大輔さん、花伶ちゃん親子。手すりを使ったりして会場内を歩いた後、「怖くなかった」とほほ笑む花伶ちゃんの方、「点字ブロックがないと怖い」とお父さん。手話で「みかん」など簡単な言葉を学んだ木村庵理くん(4歳)は、体験後、早速手話で「ありがとう」とお店の人にお礼をしていたそうです。「昔やっていた県民踊やフォークダンスを見てすごく懐かしい」と話す油見と北栄の80代の女性2人は、「日頃会えない人と会えて、話をしたりご飯を食べたりしてうれしかった」と、毎年来ていたイベントの再開を喜びました。



(上右) 大型犬と触れ合う藤本さん(上左) 華やかなフラダンス(下) 谷和神楽団の「滝夜叉姫(たきやしやひめ)」。



10月25日 玖波小学校の卒業生でお笑い芸人のゴッホ向井さんが、中学生への新たなステップを踏み出そうとする6年生15人に、「夢」について話す出前授業をしました。芸人になる夢を抱いて上京し、アルバイトをしながら生計を立てていた修業時代のことや、小学生の頃の友達の大切さなどを語りました。話の後は、子どもたちから質問を受けたり、将来の夢を聞いたりして和やかな雰囲気でした。田中藍さんと栗本香鈴さんは、「やりたいことをやっているときに言い訳をしてはいけない」という言葉が心に残った」と、先輩の言葉を心にとどめました。



11月1日 創立150周年の節目を迎えた玖波小学校。根石郁子校長と全校児童の「玖波っ子 心を一つに 盛り上げよう」という元気な声で式典は幕を開けます。まずは全校勢ぞろいの記念写真のお披露目。式典後は、児童たちが歌やダンスなどでお祝い。午後からは、卒業生のゴッホ向井さんの司会でお楽しみのお×クイズ、松ヶ原神楽団の舞の観賞や衣装の試着などを体験しました。6年生の西村多恵さん、栗本香鈴さん、中本優奈さんは、「伝統を引き継いで欲しい」「地域の人や全校児童と」ふれあえる時間などがもっと欲しい」「大人になったときにも学校が残っていて欲しい」と話してくれました。



①キラキラのダンスで決めポーズ②にぎわう自治会連合会の遊休品販売。



③お団子状のお菓子上にガブリ④狙いを定めたスナイパー⑤巣箱づくりに挑戦⑥ポニーの花子に乗った瑞希くん⑦大竹高校生徒も靴袋を配るボランティア⑧ごみ分別のチェックをする公衆衛生推進協議会。

11/12 SUN

みんな来い来いフェスティバル

総合市民会館・消防署

約1万5千人が訪れた27回目の「こいこいフェスティバル」。イン・おたけは、開会前からスタートを待つ長蛇の列ができました。外の会場では各種団体などのテントが立ち並び、ところ狭しとばかりのにぎわい。ポニーの乗馬体験をした廣森瑞希くん(大竹小2年)は「ふらふらして怖かったけど、また乗ってみたい」との感想。

体育館内にも各種団体が啓発コーナーを設けたほか、フリーマーケットも多数出店。子どもたちはエア遊具に夢中でした。ステージは、勇ましい「大竹一番太鼓童夢」の演奏でスタート。3B体操、日舞、ダンス、音楽など、バラエティに富んだ演出に、観客は拍手を送っていました。フォーケデュオ「シバザキ本舗」の高山ひなたさんと岡田育羽さんは「幼なじみの高校生コンビ。いつもと違う緊張感で手が震えたけど、やりきりました」と満足そう。

消防署では「消防フェア」を同時開催。消火や避難用シューターを体験した甲斐千晴ちゃん(6歳)は「滑り台が速くて楽しかった」と遊具感覚で避難体験を楽しんでいたようです。



秋の栗谷 ステージ・グルメ

マロンの里交流館

久しぶりの晴天に恵まれた「マロンの里秋まつり」。芝生広場には飲食ブースが並び、来場者は海の幸、山の幸を堪能。ステージでトップを飾るのは、小方中吹奏楽部。代々受け継いできた曲「宝島」などで会場を盛り上げます。橋村莉乃愛さん(1年)は「緊張したけど、うまく演奏できた。吹奏楽コンクールで3年連続金賞になった3年生のように頑張りたい」と意気込みます。和歌山から子ども2人と帰省してきた藤本彩さんは「ステージや(子どもは)川遊びして楽しめた。地域の人が集まって(雰囲気)温かくてよかった」と、ふるさとならではの良さを改めて感じたようでした。

おわびと訂正 11月号29ページのカメラスケッチに掲載した「お色直しストーンアート」の記事で、原田乃愛さんの学年が誤りでした。正しくは「小方中3年」です。おわびして訂正します。

11/5 SUN



10月21日 今年で5回目となる商工会議所主催の工場夜景遊覧クルーズに、市内外から300人以上が訪れ、工場群の光の景色を楽しみました。クルーズ船「銀河」に、前後半2組に分かれての乗船。大竹港から岩国方面の沖合に向けて出港すると、次第に闇が濃くなり、工場の光が際立ってきます。結婚34年の記念に広島市から訪れた高原正之さん、直子さん夫妻(写真)は「普段は海から見るのことができないので新鮮」と感激の様子。下瀬美術館の可動展示室がライトアップされた光景も今年のサプライズでした。

